

足立区ギャラクシティ運営評価委員会議事録

会 議 名	第2回足立区ギャラクシティ運営評価委員会		
事 務 局	地域文化課広域施設係 係長 原田 裕介 係員 中村 友理		
開催年月日	令和4年9月2日（金）		
開催時間	午前10時00分 ～ 正午		
開催場所	ギャラクシティ レクリエーションホール2		
出席者	渡辺 千歳 委員 （東京未来大学 こども心理学部教授）	山縣 朋彦 委員 （文教大学教育学部 学校教育課程 教授）	伊志嶺 絵里子 委員 （東京藝術大学音楽学部 非常勤講師）
	酒井 雅男 委員 （銀座ヒラソル法律 事務所 弁護士）	高橋 佑介 委員 （足立区立小学校PTA 連合会元副会長）	四宮 淳司 委員 （足立区少年団体連合協 議会副会長）
欠席者	なし		
会議次第	1 開 会 2 資料確認・説明 3 指定管理者ヒアリング 4 意見交換 5 評価点決定 6 閉会		
資 料	資料1 業務評価シート 資料2 業務評価チェックシート 資料3 加点提案書一覧 資料4 条例等一式 資料5 令和3年度仕様書 資料6 令和3年度事業一覧表 資料7 令和3年度各種報告書 資料8 令和3年度広報誌一式		
そ の 他			

様式第2号（第3条関係）

【開会】

<原田係長>

それでは、皆様お揃いなので早いですが始めさせていただきますと思います。本日はお忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。引き続き、広域施設係の原田が務めさせていただきます。よろしくお願いします。前回と同様に、こちらは足立区子ども未来創造館条例第21条に基づく、区長の附属機関として開催させていただきます。それでは、本日の開会に先立ちまして、委員長からご挨拶いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

<渡辺委員>

おはようございます。一昨日は少々時間が長くなり、ご予約があった方には、申し訳ございませんでした。本日はなるべく時間内に収まるように進行していきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

<原田係長>

ありがとうございます。それではここからの進行を委員長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

<渡辺委員>

只今からギャラクシティの令和3年度運営に係る第2回運営評価委員会を開催いたします。まずは本日の資料について、事務局から説明をお願いします。

【資料確認・説明】

【指定管理者ヒアリング】

<渡辺委員>

それでは早速、指定管理者のヒアリングを行い

たいと思います。本日のヒアリングでは前回のヒアリングから追加の質疑や新たな疑問点等、更に詳しく聞ければと思います。それではどこからでも構いません。ご意見のある方どうぞ。

<伊志嶺委員>

前回、最後に質問したのですが、情報誌の認知度が毎年低く、実際にこの紙媒体を見て、利用される方はどのぐらいかですとか、何を根拠にギャラクシティを知ったのかですとか、そういった調査は行われていますか。

<村田館長>

独自のアンケート調査を取っておりまして、月2回の足立区との定例会でも報告しますが、認知経路や来場のきっかけというのを毎回取っております。1番多いのはホームページです。あと、口コミですとか、毎月イベントがあれば、そのイベントを目掛けて来るお客様もいらっしゃいますし、毎月上位は大体一緒ですが、その月によって変わったりもします。来場のきっかけに関しては、「入場が無料である」や「家族で楽しめる」というものが多いです。

<広報責任者:上木原氏>

認知経路と来場きっかけを分けて取っておりまして、認知経路がホームページです。それから、情報誌を出しておりますので、それが大体二番目です。口コミ等もありますが、それから足立朝日やあだち広報も認知経路として大きいです。来場のきっかけは、「子どもが行きたがった」や「イベントがあるから」というものが多いです。大きいイベントをやる時はイベント目当てになり、そうでないときはお子さんが来たがるというのが来場のきっかけです。

<伊志嶺委員>

情報紙がどのくらい機能しているのかと思いま

して、毎年認知度が低いですし、もしかしたらあまり情報紙よりも、今はもうネットの方に移行していると思っています。

＜広報責任者:上木原氏＞

そうですね。どの年層でもホームページが一番多いですね。それから、区の広報はまだ見られています。それから私共がイベントを打った時に、ホームページにどれほど流入頻度が上がったか等、実際の来場者の分析も小まめにやっています。見ておりますと、特にイベントの集客の時に足立区のホームページに取り上げていただくと非常に集客が高くなります。足立区は区の広報の浸透度は強いと思っております。

＜伊志嶺委員＞

ありがとうございます。

＜山縣委員＞

元々は科学館的要素があるところだと思っていたのですが、令和3年度は自然科学のアピールがあまり無かったような気がします。何か開催した事業はありますか。

＜村田館長＞

そうですね。科学分野、社会分野、物作り、アートなどバランスは取ったつもりですが、ご指摘にあるように科学を意識して増やすことはできていなかったかもしれないです。宇宙分野に関しては、プラネタリウムを中心にイベントやワークショップを行っておりました。今回はできなかったですが、子供向けの天文教室を、今年は何とかやりたいと考えております。

＜山縣委員＞

具体的な天文教室のアイデアはどのようなものを考えておられますか。

＜村田館長＞

今、大人向けに天文教室を開催しておりますが、その後に我々の観望会や星を見る会のお手伝いをいただいています。天文ボランティアさんの熱量が高く、毎週来ていただいて、我々の事業に参画していただいております。その事業の子供向けが未着手だったものですから、子どもに特化した天文教室を連続講座として考えておりまして、受けていただいた方には、プラネタリウムの生解説の子ども版のようなものと考えています。それを昨年度できなかったのが、今年準備している段階でございます。

＜酒井委員＞

1つ確認させていただいてよろしいですか。広場のところにキッチンスタジオがあったかと思うのですが、昨年度はどういう利用ができたのかというご報告をいただければと思います。

＜村田館長＞

開館状況表の通り、4月から5月は一部施設休館から始まりましたが、併せて制限下の中に飲食不可というのが9月まで続きました。今までとんがりキッチンの使い方としては、やはり料理教室と一緒に作って、その場で食べるという事業が多かった中で、館内の飲食も不可でしたから、料理教室の方も全滅に近い位できませんでした。貸出しはもちろんしてはいますが、普段から需要が少ないですし、我々の料理教室が制限下において、踏み込めなかったというのが実情でございます。それは貸館の利用率にも反映されておまして、とんがりキッチン低い数字になっております。学校団体も受けるのですが、そこの昼食も、全部控えておまして、午前中に帰っていただくか、午後から来ていただくかという昼食を外した状態で来ていただいています。令和4年度に関しては、緩和されていますので、昼食も受けていますが、食べて、そのまま一緒に過ごすというのは、コロナ禍

で規制が入ったので、令和3年度はできませんでした。

<松尾副館長>

頻度は多くないのですが、本来、料理講座を開催されるはずの団体様と子供達の居場所的なものにできればということで、昨年度夏に宿題と一緒にやるというような部屋として、キッチンではあるものの、机と椅子等設備はありますので会議室的に使う事もありましたし、そういった団体様の利用は少ないですがございました。

<浅賀副館長>

補足ですが、料理をしない食育のイベントというものもありますので、とんがりキッチンの利用としては、いつも利用率が低いのが実情なので、料理をしなくても食育の講座ができるイベントというのを今年度は重点的に進めていきたいと考えています。昨年度は十分にはできていないですが、そういった講座も少し行っております。

<四宮委員>

評価シートの適切な管理遂行の中で、施設運営業務が適正に実施されているところ、区の評価は低いですね。他は上がっているところが多いのですが、これはやはりクレームの件や、お金の事故の件が大きな原因なののでしょうか。そこをどのように、本当に改善できるのかという事が大きな問題だと思いますが、どういう認識をされていらっしゃるでしょうか？

<松尾副館長>

システムのミスに関しては、再発防止策をいかに的確に徹底できるかということにあると思いますので、ミスを無くすというところを受け入れていただくしかないと思っております

<渡辺委員>

他にはいかがでしょうか。

<渡辺委員>

プラネタリウムについてプログラムを開発することも必須事業に入っていると思うのですが、令和3年度はその回数が0回だったと記載してあります。それがコロナのためにできなかったというのは、集まって行うことができなかったということですか。

<村田館長>

3本作る予定でした。毎年2月に国際科学映像祭というイベントを開催しておりまして、そこで、Gがくえんの生徒たちや、未来大の生徒たちと協力して、いつも3本作っております。そのイベントがオミクロン株が拡大した時期で、計画はしていたのですが、できなかったというのが現状です。ただ、映像制作はプラネタリウムの人間と内部職員を中心に行っておりまして、例えば足立の花火を今年も流しておりますが、前年度も制作しました。あと、足立の四季というのも撮り溜めて制作してはおりました。それはまもなく完成するので、今年度は、上映の合間にテスト的に流しております。元々制作する3本が0回だったというのは、イベント国際科学映像祭そのものが開催中止になり、集まれなかったということで0回とさせていただきました。

<渡辺委員>

その映像制作に繋げるように、スペースあすれちっくの下を大人向けのきれいな万華鏡のように演出しているということですが、それはやはり活かされていますか。

<村田館長>

そうですね、昨年度、プロジェクターを新調しましたし、東京電機大学の学生さんに来ていただき、4月、5月は完全にプラネタリウムが休止しておりましたので、その間に映像制作をしていました。あ

とは、開催中止になってしまいましたが、ジャパンフェスタというイベントで、デジタルキャンパスというコーナーで投影して、お客様の写真スポットとしてお見せする予定ではありました。途中まで制作して、お披露目まで至らなかったというのが、残念ではありますが、制作自体は活かされていると思っております。

＜渡辺委員＞

はい。出尽くしたようでしたら、ヒアリングはこれまででよろしいでしょうか。付け加えたいという方がいらっしゃいませんか。それでは、ここまででヒアリングは終わります。

【指定管理者退室】

【評価点決定】

＜渡辺委員＞

123点でB+という評価です。

＜原田係長＞

本日は長時間ありがとうございました。結果は改めて発表いたしますが、123点のB+でございます。昨年度が122点のB+ですので、同じような結果となりました。改善点も多くいただきましたし、ギャラクシティがこれを受け、改善して良い施設になっていけばと思います。それでは、最後に閉会のご挨拶を山縣委員にいただきたいと思います。

【副委員長挨拶】

＜山縣委員＞

皆様、2日間ご苦勞様でした。コロナも3年目になりまして、ずっとコロナの中で審査してきているようで、今日の管理者の話を聞いても、もう少し元気を出してほしいと思いました。改修期間に元気を蓄えて、もっと弾けるようなことを期待したいと思います。

いました。皆様、ご苦勞様でした。

【閉会】